

# ネットリテラシーの基本

## ① ネットは世界の人が見ているという意識を持つ

TwitterのようなSNSは基本的にその発言が全世界に公開されています。LINEの場合、一般的に友だち同志の内輪話のように思われていますが、思わぬところからその発言や写真が外に出てしまう事態も起こっています。



## ② ネットに1度でも出回ったものは回収不可能であることを知る

ネット上のテキストや写真はそれを見た人が自由にコピー出来ますし、そもそもインターネットはキャッシュというコピーが勝手に残るような仕組みになっています。そのため、なにか問題となった時の元を消したところで、既にネット内には無数のコピーが存在していると考えべきであり、これらコピーのすべて消すなどということは実質不可能です。

## ③ 電話会社には通信記録が残っていることを知る

自分ではこっそり行動したつもりでも、電話会社には契約したユーザーがインターネットでいつどんな場所に行ったのか、場合によっては、そこでのやり取りなどがすべて通信記録という形で残されています。犯罪予告したなど人が警察に逮捕されてしまうのはそのためです。つまり「ネットは決して匿名などではない」ということです。

## ④ ネットの情報を鵜呑みにしない

大手のニュースサイトなどはともかく、SNSなどに書き込まれた情報は誰もその内容の真偽を保証してくれません、例えば今、ネットでやり取りしている相手が男なのか女なのか、歳はいくつなのかなど、私たちはその真偽を確かめる術を持っていません。「ネット上で知り合った人と会わない方がよい」というのは、こうした理由が背景にあるからです。

## ⑤ 面と向かって言えないことはネットでも言わない

ネットでは相手の顔が見えないので、ひどい言葉を平気でいってしまう特徴があります。これは相手も状況としては同じなので、ひどいことを言うと、もっとひどい言葉が返ってきて、その応酬が泥沼のような罵り合いに結びつきがちです。ネットでも実生活と同等のモラルが必要です。それは中高生の場合、「面と向かって言えないようなことはネットでも言わない方がよい」ということに他なりません。

※ ネットリテラシーとは、そもそも「ネットを正しく利用する能力」との意味合いで使われますが、今回の研修では多少意味を限定し、「トラブルに巻き込まれないための自衛能力」という意味で使いましたことを申し添えます。